



天武天皇と 持統天皇

この歌は、「天皇崩りましし時の
太上天皇の御製歌二首」のうちの一
首です。「天皇」とは天武天皇を、



神山に たなびく雲の 青雲の
星離れ行き 月を離れて

訳

神山にたなびく雲は、青雲の中の星からも離れ、
月をも離れて去っていったことよ。

持統天皇 巻一 (一六一番歌)

「太上天皇」とは持統天皇を指して
いるといわれています。つまり、天武
天皇が崩御した際に鵜野讚良皇后
(後の持統天皇)が詠んだ歌という
こととなります。

神山にたなびく雲とは、天武天皇
の靈魂や面影を表現しているので
しょうか。『万葉集』には「春日なる
三笠の山に ゐる雲を 出で見る
ごとに 君をしそ思ふ」(春日にあ
る三笠の山にかかる雲を、出で見る
たびにあなたをこそ思うよ。／卷十
二・三二〇九番歌)という歌などが
あり、雲に人の面影を託すことが
あったようです。その雲が星や月か
ら離れていってしまうと詠まれてお
り、天武天皇との惜別の情が伝わっ
てきます。

天武天皇は、古代日本最大の内
乱といわれる壬申の乱で勝利した
ことよって強大な権力を掌握し、
その権力をもつて律令国家の建設

を強力に推し進めた人物でした。
藤原京の建設、律令の撰定、そして
『日本書紀』の編纂も天武朝から計
画されていました。

天武天皇はまた、占星台を建設
するなど、天文暦法の習得にも熱心
だったとされます。星を詠んだ万葉
歌人はあまり多くないといわれる
中で、持統天皇がこの歌に星を詠み
込んでいることには、亡き夫への思い
があつたのかもしれない。

持統天皇は、壬申の乱でも天武
天皇と行動を共にし、皇后として
も夫君の治世を支えた人物です。
天武天皇崩御後に自身が即位して
からも、新たな暦の導入など、天武
天皇同様に天文暦法を踏まえた政
策を行います。この歌からは、律令
国家の建設という志を共にした二
人の関係性の一端がうかがえるよ
うに思われます。

(本文 万葉文化館 吉原啓)



所 明日香村野口
関 明日香村文化財課 ☎0744-54-5600

天武・持統天皇陵 (檜隈大内陵)

7世紀後半の築造で、南北約44m、
東西約44m、高さ約7.7m。藤原宮の
南方中軸線上に営まれ、八角形の
五段築成と考えられています。
『日本書紀』の天武天皇「大内陵」、
『続日本紀』の持統天皇の火葬・合
葬の記載が鎌倉時代の盗掘の検分
記録と一致しました。被葬者が特定
できている数少ない陵墓の一つです。

万葉ちゃんの
つぶやき

和歌に関連
するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん